



# たまネット

## 「車いす」での外出を検証しました!

当事者委員会はこれまで行ってきたバリアフリー調査の一環として「車いすでの外出」を実行しました。

●平成28年9月17日(土)13時～

●かわさき宙(そら)と緑の科学館：向ヶ丘遊園駅南口～バス～生田緑地



### 乗車可能は何台? バスもいろいろ。

#### ●実践して、わかったこと。

スタート地点は向ヶ丘遊園駅南口。集合したのは、参加メンバー5名(内2名が車いす利用者さん)と相談支援センター職員2名です。

さっそくバスで移動開始。運転手さんはスロープを出してくれたり、座席を折り畳んで車いすが乗れるように慣れた手つきで行ってくれます。

ノンステップバスは車いすでもスムーズに乗れました。ただ、行きのバスでは2台の車いすが乗車可能でしたが、帰りのバスは折り畳めるスペースが1台分のみ。(お一人が現地解散でしたので乗れました)

「これ、乗車所が始発なら早めに並んで場所を確保できるけれど、こ混み合ってるバスが来たら乗車しにくいだろうなあ」と語り合いました。行き帰りで異なるバス会社を利用したことで、その違いも体感しました。



### 車いすにはきつい坂道。遊歩道、点字パネル。ハッと気づかされる視点。

生田緑地バス停で下車。「ここからがキツかった!」と全員の声。科学館までひたすら急な坂道を上る。生け垣や電柱で歩道が狭かったり、歩道

自体が斜面だったり、段差もありと車いすでの移動しにくさを切実に感じます。

今回、車いすで参加された和田さんは、「緑地内の道も勾配が急だよ、もっと緩やかだといいな」「駅から緑地までの歩道は車いすでも走りやすかった!でも途中で点字パネルが欠けてたね」と、細やかな視点で指摘してくれました。



### 気持ちいい空間はパーフェクト。

#### ●宙(そら)と緑の科学館。

ここは平成24年リニューアルオープンした建物。清潔感もあり、広い空間に展示物が見やすく配置され、ゆったり見学できます。トイレも広く、確かに建物全体がバリアフリーを意識して作られていました。

それだけに、生田緑地の他の施設も『これをモデルにもっとバリアフリー化が進んでほしい』と和田さんはじめ全員で痛感しました。

今回、同行する機会を得た支援者としては、気づかされることが多く、改めて「障害や年齢を問わず



誰もが住みやすい地域にしていくには?」「協議会が出来ることは?」という課題を再認識しました。

今、どんな活動をしていますか？

現在、多摩区内には多数の福祉施設、事業所があります。それぞれ創意工夫したプログラムやユニークな取り組み等、その活動を当事者の声と一緒にお伝えします。

しょうがい ひと ひと おとな こ たち さん か じ ゆう  
障害のある人もない人も、大人から子ども達までみんな参加自由！

# 第1回 誰でもスポーツ広場

平成28年の夏、『誰でもスポーツ広場』は、市民のみならず様々な障害者スポーツを体験してもらい、その認知向上・啓発を目的として、記念すべき第1回目のイベントを開きました。

- 平成28年8月21日(日) ●富士通スタジアム川崎
- 主催：川崎市障害者スポーツ協会



## あ、これ知ってる！それも競技なの？ 障害者スポーツを体験しよう。

広いスタジアムに入ると、各ブースに分かれて競技が行われています。まずはその多種多様さにびっくり。はじめて知る種目やユニークな競技方法にも興味しんしん。どれも大人から子ども達まで同じ様に楽しめるのが特徴です。

種目はフライングディスク、ストラックアウト(柔らかい素材のフリスビーを使用)、輪投げ(輪はプラスチック製の他に紐を使用)、ペタンク、ペガーパーボール、CPサッカー(脳性まひ者7人制サッカー)、キックターゲット等々の各体験コーナーやサッカー教室、交通安全自転車シミュレーターのコナーもあります。

それぞれの種目において各競技会のプロの審判・コーチや指導者がサポートをしています。

## 「こんな楽しい競技があったなんて！」 初体験の感想いろいろ。

当日はお天気にも恵まれて、場外に設置された食事や飲み物ブースも大盛況。大人から子ども達まで約150名の方が楽しまれました。

これまで「単なる遊びと思っていたのが、スポーツ競技だったとは！」「思わず手に汗握る興奮のゲーム」など、参加後のアンケートには、初体験の喜びや感動、大会への共感をはじめ感想もたくさん寄せられました。

## 「フライングディスク」とは？

今回、参加されたOさんに体験談を伺いました。この競技はプラスチック製のディスク(フリスビー)を使用して、ディスタンス、アキュラシーの2種目で競われます。

1. ディスタンス=3回投げてどれだけ遠くに投げられるかを競う。
2. アキュラシー=標的の輪をめがけ、通過した回数を競う。



Oさんはアキュラシーに挑戦して、10回中5回成功。「コントロールが難しかったけれど、けっこう成功できたので良かった！」と大満足。その他に2つの競技も体験されて、「みんなでスポーツをした楽しさ」が心に残ったそうです。

競技紹介 & Oさん体験談

# 「100本のうち1本ヒットが打てればいい。」

- 平成28年10月28日(金)
- 多摩川あゆ工房



かんりせきにんしゃ  
 サービス管理責任者  
 もりやま しげき  
 森山 茂樹さん

**1**  
**100**

いきなり「これぞ極意」の様なすばらしい言葉に出会って思わずタイトルにしてしまいました。これはあゆ工房のスタッフさんが大事にしている「尊敬する先輩からの教え」だそうです。今回の事業所訪問は、そこで働く方々の仕事についてじっくりお話を伺いました。

## きっかけは高校時代、キャンプでの交流と飛躍。

まずは、福祉の仕事に就いたきっかけをお聞きしました。かつて高校の生徒会行事で参加をした、複数の学校の合同キャンプにて、生徒が互いに交流する機会がありました。その中に耳の聞こえない方が何名かいて、一緒に山を登ったり、寝食を共にするうち「なーんだ！障害があってもこうして一緒に楽しめるじゃないか！」と得心したそう。新鮮な驚きはそのまま「障害ってどんな世界なんだろう？」という関心へ、福祉関係の学校へと繋がり、現在の仕事に就いたそうです。

## 毎日コツコツ努力も、企画やアイデアをだすことも、契約交渉さえもある仕事。

では「福祉の仕事のやりがいとは何ですか？」の問いに「自分で組み立てた支援が上手くいった時！」とのお返答。一例をご紹介します。室内作業で部品の組み立てをしていたある利用者さん。みんなで一緒に机を並べて作業をするのが苦手の様子「この人は部品の組み立てに向かないのかな？」

いやいや、どうすれば？」そこで、自習室のように机をパーティションで区切ってみた。障害特性に合わせて解りやすいスケジュール提示等も含め、周囲からの刺激を軽減し環境を整えたところ、ラクに作業参加ができるようになりました。このように上手くいった時は「やった！」と嬉しかったですね。

また、利用者さんは企業から依頼された作業をしているのですが、「この仕事楽しいです」と言ってもらえる仕事を契約してきた時には「よし！」と「やりがい」を感じるそうです。地道な日常活動の中にも企画やアイデアが必要なのだと知って福祉の仕事のイメージが広がって見えました。

## 1本のヒットにある嬉しさとおもしろさ。まずは100本打つ気持ちが大事。

「いやあ、失敗談は数知れずです」と、そちらの例もひとつ。支援者として一生懸命考えて働きかけたことに利用者さんからは「そこまでしなくていい」と。結果的におせっかいしすぎてしまった。これは長年キャリアを積んでもへこむそうです。

しかし、これこそが福祉の仕事の「キモ」とも言い、ここであの最初の名言が飛び出したのです。日々の生活を支援していくことは時に達成感を味わいにくく、それでいて失敗談は多い。この失敗と成功を繰り返しつつ取り組んでいく、その分析や過程を楽しむことが大事で、100本打てる位の気持ちを大切に。1本のヒットの格別な嬉しさやおもしろさを、ぜひ、経験してもらいたい、と。最後に力強い言葉をいただきました。

<b>4つの作業班</b>	開設から22年。現在、利用者数は約80名。4つの作業班はご本人の希望で選択。その他作業外の部活動、年間イベント、町内会運動会への参加など、活動内容は幅広い。	うちざぎょうはん <b>内作業班</b> チラシ折、部品の組み立て・検品。1日1,000個納品もあるとか。集中力と根気がいりますね。	おり ぶひん く た けんひん にち そとざぎょうはん はな う <b>外作業班</b> お花の植えか ぐさか こし かん 替えや草刈り、古紙・缶回収。	せいそうはん やくしょ たてもの しゅつこう <b>清掃班</b> 役所の建物やマンションにも出向。	
	オートバイのスイッチ	や が し はん <b>焼き菓子班</b> 「レゼル」のブランド名称で販売。通し販売も開始しました。			

# 災害時に備えよう!

●平成28年10月2日(日) ●多摩川の里身体障害者福祉会館

## 必要なことの伝え方。

## 困っていることの知らせ方。

今年度も多摩区聴覚障害者協会では、いろいろな機会をとらえて防災訓練を実施&参加しています。

「耳が聞こえない」「話すことができない」そうした障害者の方々にとっての防災訓練において、最も重要なのは『いかに必要な情報を正確に受け取れるか』です。「避難の仕方は?」「避難所ではどうする?」など、一つ一つの場面でのより具体的な対応を確認しながら災害時に備えています。

## “マンツーマン”で顔合わせ。

## 支援者とのコミュニケーション。

そして、もう一つのポイントは支援者に『何が困っているかをどう知らせるか』です。手話・筆談は必須のコミュニケーション。ここでは当事者だけでなく地域の仲間や支援者たちと直接連携をはかること。『顔つなぎ』を目的とした地域別の訓練タイムが設けられたことなど、とても有意義でした。

また、災害時に役立つヒント、工夫についての紹介もあり、大きなゴミ袋をレインコートや防寒具として着込むコツなどが伝授されました。



平成28年度川崎市聴覚障害者災害訓練 ●内容: メールアドレス登録、ツイッター登録、安否確認(メール送受信)、グループディスカッション  
[非常持ち出し袋について]。参加者: ろう者、中途失聴・難聴者、手話サークル会員、手話通訳者、要約筆記者、民生委員など地域の方

## 「たまネット」はここにあります。

- ここ1** お気軽に手に取ってください!  
●多摩区役所1階  
アトリウム「福祉」コーナーラック
- ここ2** 常時置いてます!  
●多摩区役所8階  
多摩区保健福祉センター 高齢・障害課
- ここ3** パソコンでもご覧になれます!  
●多摩区地域自立支援協議会のホームページの中程にPDF版を掲載しています。



多摩区役所一階 アトリウム「福祉」コーナーラック  
この名称でクリック 多摩区地域自立支援協議会 検索

## 多摩区地域自立支援協議会とは?

多摩区内において、障害のある方とその家族、関係機関などが集まり、情報交換、交流し、障害児者が地域で生活していく中で困難となっている課題等を取り上げ、より暮らしやすい地域づくりに向けて、話し合いをしています。

お問い合わせ 多摩区保健福祉センター高齢・障害課 多摩区地域自立支援協議会 電話:044-935-3302 Fax:044-935-3396  
ホームページ <http://www.city.kawasaki.jp/tama/page/0000054346.html>